一　般　健　康　診　断

受診者数の推移

平成23年度の一般健康診断等の受診団体数は、平成22年度と比較してやや増加したものの、受診者数はやや減少した。 全国健康保険協会管掌健康保険生活習慣病予防健診は、受診団体数、受診者数ともに平成22年度とほぼ同じであった。また、一般健康診断の全項目、省略項目ともに平成22年度はより減少した。総合健診をもって定期健康診断とする件数は前年度に比べやや増加した。

有所見率の推移

胸部Ｘ線：「異常なし」の比率は男女とも60歳代以上を除いて微増、60歳代以上で増加した。「年１回定期観察」の比率は、平成21年度以降、60歳代以上を除いて男女全ての年代で緩やかな減少傾向が続いている。60歳代以上では男女とも5％程度減少した。一方、「要精密検査」の比率は60歳代以上を除いて男女全ての年代でほぼ横ばい、60歳代以上では男女とも減少した。

血圧：収縮期血圧、拡張期血圧の平均値は男女とも全年代で平成19年以降低下していたが、平成22年度以降、男女とも増加傾向が続いている。「正常範囲」の比率については男女ともほぼ全年代で増加した。収縮期血圧90～99または拡張期血圧140～159の「要経過観察」の比率は男女とも40代以上で減少した。収縮期血圧100～または拡張期血圧160～の「要注意」「要受診」の比率も男女とも減少した。

ＢＭＩ、腹囲：平成20年度から導入された腹囲計測は男性100cm以上でやや増加傾向にある以外は横ばいである。BMIは男性30～39.9、女性35～39.9で増加傾向、男女とも18.5～24.9で減少傾向にある。

貧血検査：「異常なし」の比率は平成22年度と比較し女性は減少傾向、男性は微増か横ばいとなった。「要二次検査」の比率は男女とも微増となった。「要受診」の比率は男性で60歳以上を除いて減少傾向、女性は全年代で増加傾向となった。「要経過観察」の比率も男女とも「要受診」と同じ傾向となった。

肝機能：「異常なし」の比率は、平成22年度に続きほぼ横ばいとなった。「要経過観察」の比率は男性で増加傾向、女性はほぼ横ばいであった。「要二次検査」の比率は男性の全年代で～29歳を除き減少傾向、女性はほぼ横ばいであった。「要受診」の比率は男性約0.6％、女性約0.1％と低く、年代でばらつきはあるものの、全体では変化はなかった。

脂質検査：「異常なし」の比率は、男女とも平成22年度に続き横ばいであった。「要経過観察」の比率は平成20年度、男性の20歳代を除き男女ともすべての年代で減少、平成21年度は男女とも増加に転じ、平成22、23年度はほぼ横ばいであった。「要二次検査」の比率は男性は29歳までを除き減少、女性はすべての年代で横ばいであった。「要受診」は、平成23年度も男女ともほぼ全年代で横ばいであった。

聴力検査：「所見なし」の比率は平成17年以降、男性の40歳以上、女性50歳以上で緩やかに増加傾している。「所見あり」の比率は男女とも50代以上で減少傾向が続いている。「１、４kHzとも所見あり」の比率は男女ともすべての年代で減少、「４kHzのみ所見あり」は男性60歳以上で増加、逆に女性では減少している。「１kHzのみ所見あり」では男女とも増加している。

心電図検査：「異常なし」の比率は男女ともほぼ横ばいであった。「ほぼ正常」の比率は男性は30～39歳代を除き減少傾向、女性はほぼ横ばいであった。「要経過観察」の比率は男性～29歳代と60歳～で増加傾向、女性は30～39歳代と60歳～を除き増加傾向であった。「要受診」の比率は男性は全年代でほぼ横ばい、女性は50歳以上で増加したがそれ以外の年代は横ばいであった。

糖：「異常なし」の比率男女ともほぼ横ばいであった。「ほぼ正常」の比率は、男性は30～49歳代を除き減少、女性は全年代でほぼ横ばいであった。「要経過観察」の比率は男性は～29歳代と60歳以上で増加、～29歳代と50～59歳代で増加した。「要二次検査」の比率は男性は30～49歳を除き減少、女性は50～59歳で増加したがそれ以外は横ばいであった。「要受診」の比率は男女とも全年代でほぼ横ばいであった。

関係の集計表は113頁に掲載